

# 広島市生活状況に関する調査の結果について（概要版）

## 1 調査目的

内閣府が令和4年度に実施した調査によると、15歳から64歳でひきこもり状態にある人は、全国で146万人に上ると推計されており、その長期化・高齢化が深刻な問題となっている。  
本市では、ひきこもり状態にある人やその家族等に対する今後の支援の在り方を検討する基礎資料とするため、初めてとなる全市的なアンケート調査を実施した。

## 2 調査手法

調査地域：広島市全域  
抽出方法：市内に居住する15歳～64歳の中から無作為抽出（同居者票はその家族）  
調査方法：郵送配布・回収（インターネットによる回答を併用）  
調査対象：①本人票：6,000人、②同居者票：4,000人  
調査期間：令和7年8月7日～31日  
有効回答数：①本人票：1,859人（回収率31.0%）、②同居者票：996人（回収率24.9%）

## 3 今回の調査における定義

本調査における「ひきこもり」は、厚生労働省が定義する広義のひきこもりのことを示している。  
さらに今回、今後ひきこもり状態となる可能性がある層を把握するため、同省が定義する「支援対象者」についても本市独自に整理を行った。

### (1) ひきこもりの定義

様々な要因の結果として社会的参加を回避し、原則的には6か月以上にわたっておおむね家庭にとどまり続けている状態

「現在どのくらい外出しますか」という質問に対し、下記の1～4のいずれかであると回答し、かつ、その状態となって6か月以上であると回答をした者

- 1 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 2 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室からは出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

※ 現在の外出状況の理由を専業主婦(夫)や出産・育児中で家族以外と交流があると回答している者等を除く。

### (2) 支援対象者の定義

社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、様々な生きづらさを抱えている状態

- ① 身体・心理・進路状況に関する質問や、生活状況等に関する質問に対し、下記の1～6の1つ以上に該当すると回答し、かつ、他者との交流が少ない者
  - 1 何らかの怪我や病気で通院や入院をしたことがある
  - 2 ネガティブな心理傾向にある
  - 3 何らかの病気や障害等により、体力的、心理的、時間的な制約があり、就職活動をしていない
  - 4 経済的に苦しい
  - 5 何らかの理由で外出頻度に満足していない
  - 6 過去の不登校等の経験がある

又は

- ② 孤独と感じることが「有」と回答し、また、周囲の人や社会との関わり方に「不満がある」と回答した者のうち、「現在困り事がある」、「悩み事ができたときに他者に相談をする」と回答した者

→ 困り事がない、又は、他者に相談しないと回答した者は「支援が必要な状態（支援希望なし）」と整理している。

## 4 ひきこもり状態にある人等の推計

本市の15歳から64歳で、ひきこもりや支援対象者に該当する人は以下のように推計された（約85,400人（約12%））。

(1) ひきこもり：約13,600人（約1.9%）・・・内閣府調査：約146万人（約2.0%）

（推計人数の算出方法）

調査時点（令和7年7月末）における住民基本台帳人口×有効回答数に占める割合

15歳～39歳：307,153人×1.32%=4,054人

40歳～64歳：407,722人×2.33%=9,500人 計 13,554人

(2) 支援対象者：約71,800人（約10.0%）

（推計人数の算出方法）

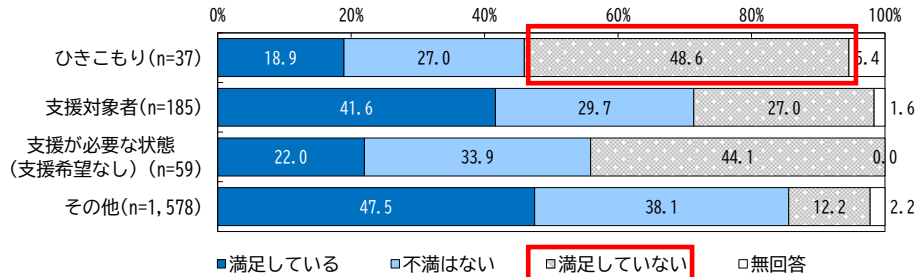
調査時点（令和7年7月末）における住民基本台帳人口×有効回答数に占める割合

15歳～39歳：307,153人×10.56%=32,435人

40歳～64歳：407,722人×9.65%=39,345人 計 71,780人

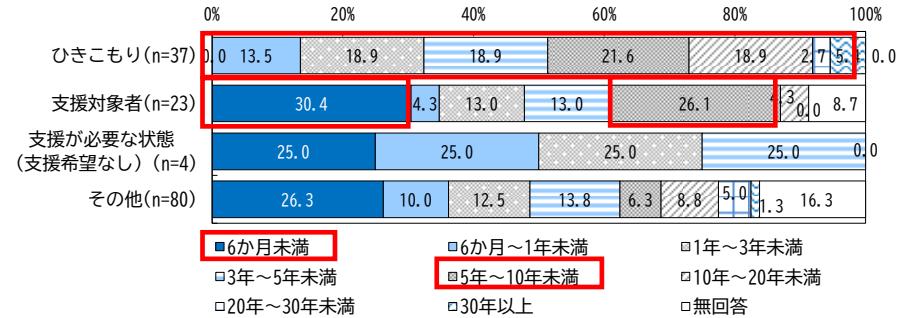
# 外出状況について

## (1) 現在の外出頻度の満足感



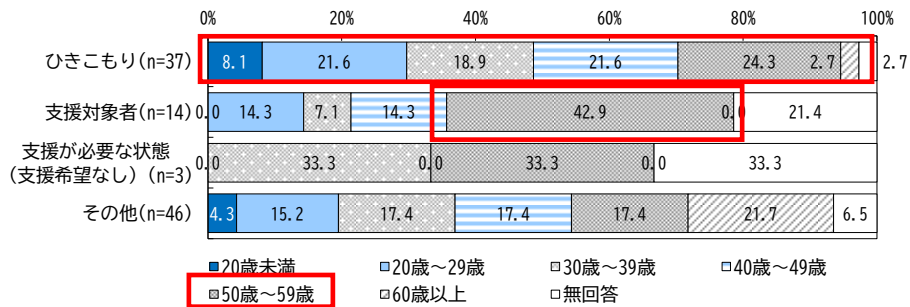
- ひきこもりに該当する人では、「満足している」が18.9%、「不満はない」が27.0%、「満足していない」が48.6%となっている。
- 支援対象者に該当する人では、「満足している」が41.6%、「不満はない」が29.7%、「満足していない」が27.0%となっている。

## (2) 外出できなくなっからの期間



- ひきこもりに該当する人では、3年未満が32.4%、「3年～5年未満」が18.9%、「5年～10年未満」が21.6%、10年以上が27.0%となっている。
- 支援対象者に該当する人では、3年未満が47.7%、「3年～5年未満」が13.0%、「5年～10年未満」が26.1%、「10年～20年未満」が4.3%となっている。

## (3) ほとんど家にいる状態になった年齢



- ひきこもりに該当する人では、40歳未満が48.6%、40歳以上が48.6%となっている。
- 支援対象者に該当する人では、40歳未満が21.4%、40歳以上が57.2%となっている。

## (4) ほとんど家にいる状態になった理由

	回答数	病気	退職したこと	人間関係がうまくいかなかったこと	就職活動がうまくいかなかったこと	学校になじめなかったこと	大学生(専門学校・短期大学生を含む)時等の不登校	職場になじめなかったこと	中学生時の不登校
ひきこもり	37	40.5%	24.3%	18.9%	10.8%	5.4%	5.4%	5.4%	2.7%
支援対象者	14	57.1%	28.6%	7.1%	-	-	5.4%	7.1%	-
支援が必要な状態 (支援希望なし)	3	33.3%	33.3%	-	-	-	-	-	-
その他	46	17.4%	23.9%	10.9%	4.3%	2.2%	-	6.5%	4.3%

	回答数	高校生時の不登校	受験に失敗したこと(高校・大学等)	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	妊娠したこと	介護・看護を担うことになったこと	小学生時の不登校	その他	特になし
ひきこもり	37	2.7%	2.7%	2.7%	-	-	-	18.9%	5.4%
支援対象者	14	-	-	21.4%	-	7.1%	-	21.4%	7.1%
支援が必要な状態 (支援希望なし)	3	-	-	-	-	33.3%	-	33.3%	-
その他	46	-	-	13.0%	15.2%	26.1%	2.2%	19.6%	6.5%

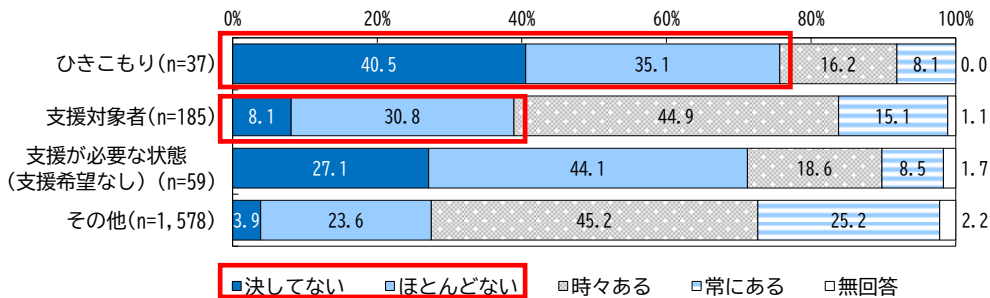
- ひきこもりに該当する人では、「病気」とが40.5%と最も高く、「退職したこと」(24.3%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(18.9%)が続いている。
- 支援対象者に該当する人では、「病気」が57.1%と最も高く、「退職したこと」(28.6%)、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」(21.4%)が続いている。

### 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人では、外出できなくなっからの期間やほとんど家にいる状態になった年齢に特徴的な傾向は見られなかった中で、現在の外出頻度に満足していない人が約5割となっている。
- 支援対象者に該当する人では、外出できなくなっからの期間は「6か月未満」と「5年～10年未満」が多く、また、家にいる状態になった年齢は50歳代が多い。
- ほとんど家にいることになった理由としては、いずれも社会とのつながりが絶たれた要因と考えられる「病気」と「退職したこと」が多かった。

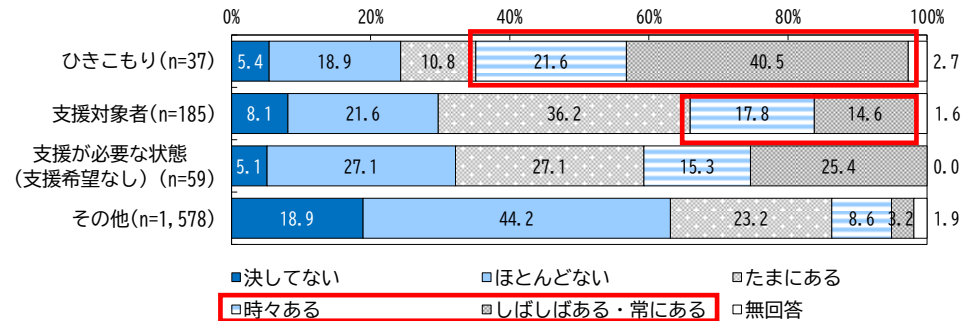
# 人との交流の状況について

## (1) 他の人たちとの結びつき



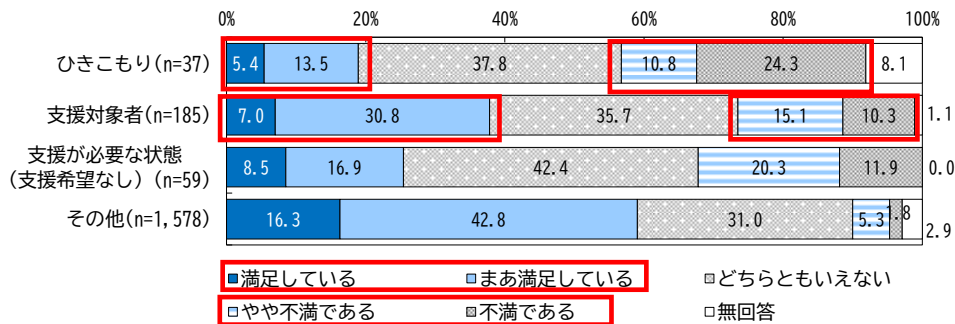
- ・ ひきこもりに該当する人では、結びつきが強いと感じることが「常にある」が8.1%、「ない」が75.6%となっている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、結びつきが強いと感じることが「常にある」と回答した割合が15.1%、「ない」と回答した割合が38.9%となっている。

## (2) 孤独感



- ・ ひきこもりに該当する人では、「時々ある」が21.6%、「しばしばある・常にある」が40.5%となっている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「時々ある」が17.8%、「しばしばある・常にある」が14.6%となっている。

## (3) 社会とのかかわり方の満足度



- ・ ひきこもりに該当する人では、「満足している」が18.9%、「不満である」が35.1%となっている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「満足している」が37.8%、「不満である」が25.4%となっている。

### 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人では、他の人たちとの結びつきがないと感じる人が約8割、孤独感を感じる人が約6割となっている。
- 支援対象者に該当する人では、他の人たちとの結びつきがないと感じる人が約4割、孤独感を感じる人が約3割となっている。
- 社会とのかかわり方について、ひきこもりに該当する人では「満足している」よりも「不満である」割合が高いのに対し、支援対象者に該当する人では「満足している」割合の方が高くなっている。

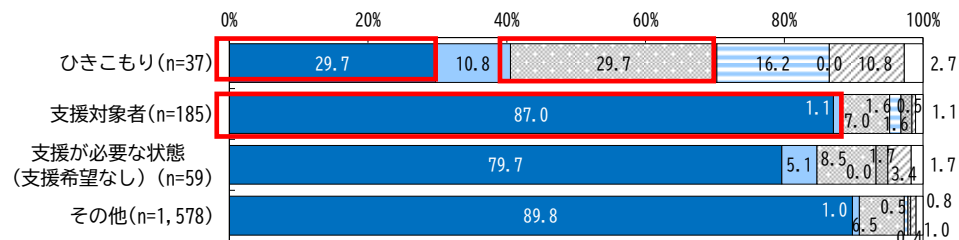
# 経済的な状況について

## (1) 生計を支えている家族

	回答数	あなた自身	父	母	配偶者	きょうだい	あなたの子	その他	わからない、答えられない	無回答
ひきこもり	37	40.5%	27.0%	24.3%	13.5%	-	-	8.1%	-	-
支援対象者	185	60.5%	15.7%	10.3%	43.8%	1.1%	0.5%	1.1%	0.5%	0.5%
支援が必要な状態 (支援希望なし)	59	76.3%	10.2%	11.9%	18.6%	-	5.1%	-	1.7%	1.7%
その他	1,578	60.0%	17.2%	11.5%	38.3%	1.7%	1.2%	1.0%	0.7%	0.6%

- ・ ひきこもりに該当する人では、「本人」が40.5%、「父」が27.0%、「母」が24.3%と続いている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「本人」が60.5%、「配偶者」が43.8%、「父」が15.7%と続いている。

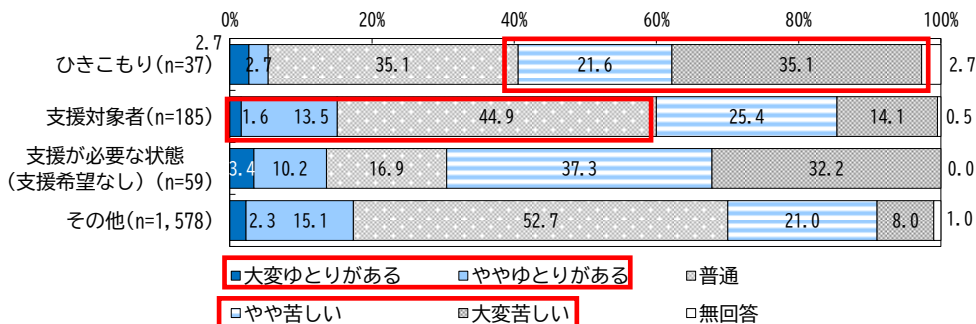
## (2) 主に生計を支えている家族の収入源



- 就労、事業による収入 (農業収入を含む)
- 預金やその利息、財産からの収入 (株配当や不動産賃料など)
- 年金
- 生活保護
- その他
- 不明、答えられない
- 無回答

- ・ ひきこもりに該当する人では、「就労、事業による収入 (農業収入を含む)」と「年金」がともに29.7%となっている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「就労、事業による収入 (農業収入を含む)」が87.0%となっている。

## (3) 暮らしの経済的状況



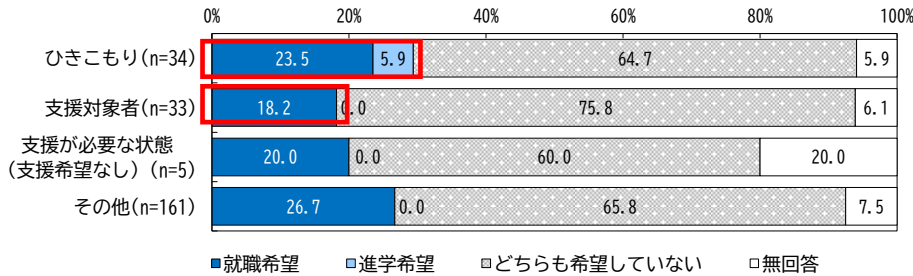
- ・ ひきこもりに該当する人では、「ゆとりがある」が5.4%、「苦しい」が56.7%となっている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「ゆとりがある」が15.1%、「苦しい」が39.5%となっている。

### 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人では、生計を支えているのは「本人」や「父」、「母」と回答した人が多かった。また、その収入源は「就労等による収入」や「年金」と回答した人の割合が多い中、暮らしの経済的状況が「苦しい」と回答する人が約6割であった。
- ひきこもりに該当する人は、就労していない人であるため、家族の「就労等による収入」や本人又は家族の「年金」により、生計が支えられていると考えられる。
- 支援対象者に該当する人では、生計を支えているのは「本人」や「配偶者」と回答した人が多かった。また、その収入源のほとんどが「就労等による収入」と回答した人が多い中、「ゆとりがある」、「普通」と回答する人が約6割であった。
- 支援対象者に該当する人は、主に本人や配偶者の「就労等の収入」により生計を支えている傾向が見られる。

# 就職等の状況について

## (1) 就職・進学希望の有無



- ・ ひきこもりに該当する人では、「就職・進学希望」が29.4%となっている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「就職・進学希望」が18.2%となっている。

## (2) 就職・進学を希望していない理由

	回答数	からだやこころの不調のため	精神的な病気・障害のため	人間関係に不安があるため	長時間働くことが難しいため	身体的な病気・障害のため	意欲がわかないため	知識・能力に自信がないため	責任を負うことへの不安があるため
ひきこもり	33	48.5%	36.4%	36.4%	36.4%	33.3%	30.3%	24.2%	24.2%
支援対象者	29	31.0%	24.1%	13.8%	31.0%	20.7%	10.3%	20.7%	17.2%
支援が必要な状態 (支援希望なし)	5	40.0%	-	20.0%	60.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%
その他	137	10.9%	9.5%	13.1%	13.9%	12.4%	9.5%	10.2%	8.0%

	回答数	自分に合う仕事が見つからないため	就職活動(面接等)に不安があるため	定年(早期)退職したため	家族からの経済的支援や貯金があるため	投資などによる収入があるため	妊娠・出産・育児のため	進学準備のため	資格試験・就職等の準備のため
ひきこもり	33	21.2%	18.2%	15.2%	12.1%	3.0%	3.0%	-	-
支援対象者	29	20.7%	6.9%	3.4%	6.9%	3.4%	10.3%	-	3.4%
支援が必要な状態 (支援希望なし)	5	20.0%	20.0%	20.0%	-	-	-	-	20.0%
その他	137	14.6%	5.1%	9.5%	13.9%	2.2%	19.0%	-	3.6%

	回答数	起業準備のため	介護・看護のため	その他	無回答
ひきこもり	33	-	-	6.1%	-
支援対象者	29	-	20.7%	10.3%	-
支援が必要な状態 (支援希望なし)	5	-	20.0%	-	-
その他	137	0.7%	13.9%	13.1%	1.5%

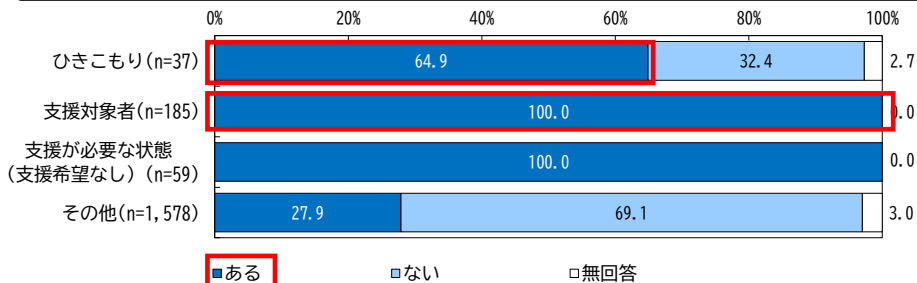
- ・ ひきこもりに該当する人では、「からだやこころの不調のため」が48.5%と最も高く、「精神的な病気・障害のため」、「人間関係に不安があるため」、「長時間働くことが難しいため」がいずれも36.4%で続いている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「からだやこころの不調のため」、「長時間働くことが難しいため」がいずれも31.0%と最も高く、「精神的な病気・障害のため」が24.1%で続いている。

### 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人では、就職・進学希望を有しているのは約3割であった。
- 支援対象者に該当する人では、約2割にとどまっており、これは本人が現に就労していることが要因と考えられる。
- 就職・進学を希望していない理由は、ひきこもりに該当する人と支援対象者に該当する人で大きな違いは見られず、こころや身体的な病気・障害などの「心身の不調」と回答する割合が高い傾向が見られた。

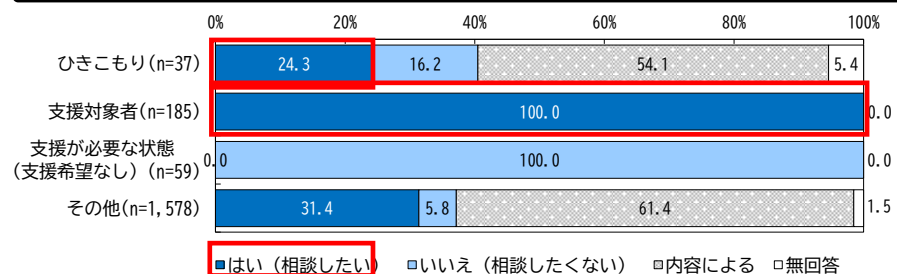
# 相談等の状況について

## (1) 困りごとの有無



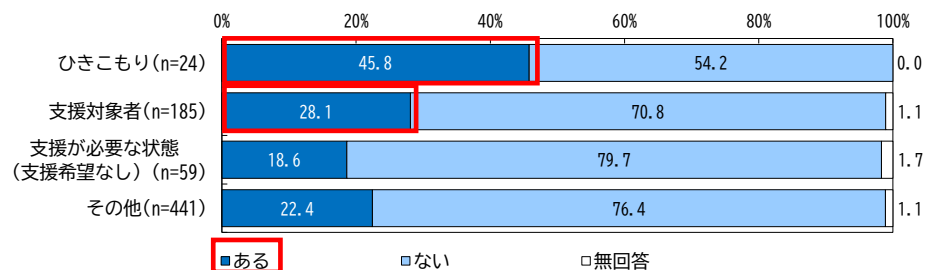
- ひきこもりに該当する人では、「ある」と回答した割合が64.9%となっている。
- 支援対象者に該当する人では、「ある」と回答した割合が100%となっている。

## (2) 悩み事の相談意向



- ひきこもりに該当する人では、「はい (相談したい)」が24.3%、「いいえ (相談したくない)」が16.2%、「内容による」と回答した割合が54.1%となっている。
- 支援対象者に該当する人では、「はい (相談したい)」が100%となっている。

## (3) 相談した経験



- ひきこもりに該当する人では、「ある」と回答した割合が45.8%となっている。
- 支援対象者に該当する人では、「ある」と回答した割合が28.1%となっている。

## (4) 困りごとを相談したくない理由

	回答数	相談しても解決できないと思う (%)	相手にうまく話せないと思う (%)	自分のことを知られたくない (%)	相談したことを人に知られたくない (%)	何を聞かれるか不安に思う (%)	お金がかかると思う (%)	相談機関が近くにない (%)	その他 (%)
ひきこもり	9	66.7	44.4	33.3	33.3	22.2	22.2	11.1	22.2
支援対象者	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-
支援が必要な状態 (支援希望なし)	8	75.0	50.0	25.0	12.5	50.0	25.0	-	12.5
その他	52	36.5	21.2	21.2	15.4	9.6	11.5	-	9.6

	回答数	特に理由はない (%)	無回答 (%)
ひきこもり	9	11.1	-
支援対象者	2	-	-
支援が必要な状態 (支援希望なし)	8	-	-
その他	52	30.8	-

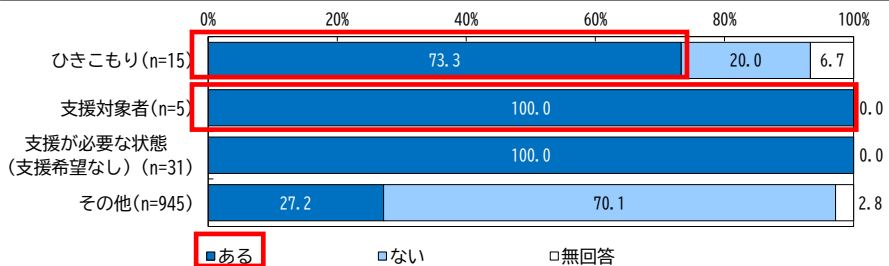
- ひきこもりに該当する人では、「相談しても解決できないと思う」と回答した割合が66.7%と最も高く、「相手にうまく話せないと思う」、「自分のことを知られたくない」、「相談したことを人に知られたくない」(33.3%)が続いている。
- 支援対象者に該当する人では、「相談しても解決できないと思う」と回答した割合が100%と最も高く、「相手にうまく話せないと思う」、「自分のことを知られたくない」(50.0%)が続いている。

### 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人では、約7割が困りごとを有している。悩み事の相談意向がある人は2割強、また、相談した経験がある人は5割弱であった。
- 支援対象者に該当する人では、10割が困りごとを有している。悩み事の相談意向がある人は10割、また、相談した経験がある人は3割弱であった。
- 困りごとを相談したくない理由としては、いずれも「相談しても解決できないと思う」と回答する割合が最も高かった。

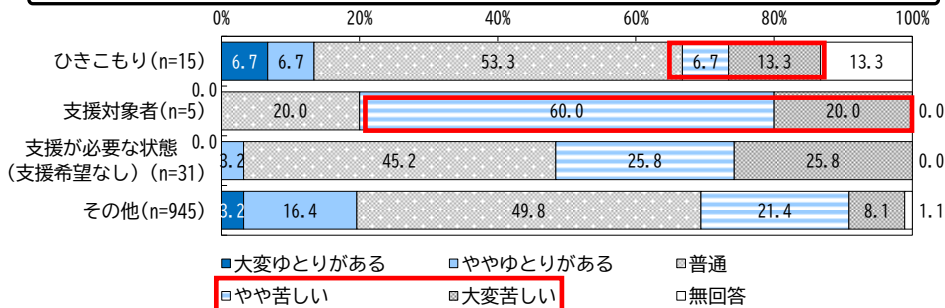
# 同居者の不安等について（同居者の回答より抜粋）

## (1) 現在の状態に対する、同居者としての不安の有無



- ひきこもりに該当する人の同居者では、「ある」と回答した割合が73.3%となっている。
- 支援対象者に該当する人の同居者では、「ある」と回答した割合が100%となっている。

## (3) 暮らしにおける経済的状況



- ひきこもりに該当する人の同居者では、「ゆとりがある」と回答した割合が13.4%、「苦しい」と回答した割合が20.0%となっている。
- 支援対象者に該当する人の同居者では、「ゆとりがある」と回答した割合が0.0%、「苦しい」と回答した割合が80.0%となっている。

## (2) 不安や心配の内容

	回答数	親亡き後、どう暮らしていくのが不安	運動をしないため健康状態が心配	外出を嫌がるようになった	働くなど社会参加する意欲が見えない	生活リズムが乱れた	無気力・無関心になった	交流する人が減ってきている	働かないといけない焦りがある
ひきこもり	11	81.8%	54.5%	45.5%	45.5%	36.4%	36.4%	27.3%	27.3%
支援対象者	5	40.0%	80.0%	20.0%	40.0%	20.0%	60.0%	80.0%	40.0%
支援が必要な状態 (支援希望なし)	31	9.7%	38.7%	3.2%	6.5%	16.1%	9.7%	19.4%	12.9%
その他	257	11.7%	38.1%	3.9%	4.7%	10.9%	6.6%	17.1%	16.7%

	回答数	自分に自信がないような悲観的な発言が増えた	以前よりも家族内での会話が減った	履歴書の職歴に空白が出る	内科等を受診してほしい	自分の容姿に気を遣わなくなった	仕事が短時間しか続かない	家族に対する暴言、暴力がある	貯金が減っている
ひきこもり	11	18.2%	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%
支援対象者	5	40.0%	40.0%	20.0%	-	40.0%	-	20.0%	40.0%
支援が必要な状態 (支援希望なし)	31	16.1%	29.0%	-	6.5%	9.7%	6.5%	9.7%	29.0%
その他	257	7.0%	5.4%	1.2%	3.9%	6.2%	3.9%	4.3%	26.5%

	回答数	精神科を受診してほしい	その他	無回答
ひきこもり	11	9.1%	18.2%	-
支援対象者	5	-	-	-
支援が必要な状態 (支援希望なし)	31	6.5%	16.1%	-
その他	257	3.1%	22.6%	2.7%

- ひきこもりに該当する人の同居者では、「親亡き後、どう暮らしていくのが不安」と回答した割合が81.8%と最も高く、「運動をしないため健康状態が心配」(54.5%)、「外出を嫌がるようになった」(45.5%)、「働くなど社会参加する意欲が見えない」(45.5%)が続いている。
- 支援対象者に該当する人の同居者では、「運動をしないため健康状態が心配」、「交流する人が減ってきている」と回答した割合がともに80.0%と最も高く、次いで「無気力・無関心になった」(60.0%)となっている。

### 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人の同居者では、約7割が現在の本人の状態に対して不安を抱えており、その内容として「本人が親亡き後どう暮らしていくのが不安」が最も高い割合であった。
- 支援対象者に該当する人の同居者では、10割が現在の本人の状態に対して不安を抱えており、その内容として「健康状態が心配」や「交流する人が減ってきている」が最も高い割合であった。
- ひきこもりに該当する人の同居者では、暮らしにおける経済的状況が「苦しい」と回答する割合が2割だったのに対し、支援対象者に該当する人の同居者では、8割と高い傾向が見られる。

# 支援へのニーズについて（本人と同居者との回答比較）

(1) 必要だと思う市の支援(上位3位)・本人回答

	回答数	相談窓口の周知	相談窓口の充実	こころの病気に関する正しい知識の普及	本人への直接的な支援	ひきこもりに関する正しい知識の普及	家族等への直接的な支援	本人が参加できる居場所等をつくる	職場体験(就労体験)ができる仕組みづくり
ひきこもり	37	48.6%	48.6%	37.8%	35.1%	24.3%	16.2%	10.8%	8.1%
支援対象者	185	47.6%	41.1%	33.5%	34.1%	16.2%	24.3%	27.6%	8.1%
支援が必要な状態(支援希望なし)	59	42.4%	40.7%	37.3%	32.2%	13.6%	15.3%	22.0%	8.5%
その他	1,578	52.7%	45.1%	35.6%	37.4%	19.4%	26.2%	23.3%	8.6%

	回答数	支援者への研修	無回答
ひきこもり	37	2.7%	18.9%
支援対象者	185	10.8%	18.4%
支援が必要な状態(支援希望なし)	59	8.5%	22.0%
その他	1,578	9.8%	13.4%

- ・ ひきこもりに該当する人では、「相談窓口の周知」、「相談窓口の充実」がともに48.6%と最も高く、「こころの病気に関する正しい知識の普及」(37.8%)、「本人への直接的な支援」(35.1%)が続いている。
- ・ 支援対象者に該当する人では、「相談窓口の周知」が47.6%と最も高く、「相談窓口の充実」(41.1%)、「本人への直接的な支援」(34.1%)、「こころの病気に関する正しい知識の普及」(33.5%)が続いている。

(2) 必要だと思う市の支援(上位3位)・同居者回答

	回答数	本人への直接的な支援	本人が参加できる居場所等をつくる	相談窓口の充実	相談窓口の周知	こころの病気に関する正しい知識の普及	ひきこもりに関する正しい知識の普及	職場体験(就労体験)ができる仕組みづくり	家族等への直接的な支援
ひきこもり	15	53.3%	53.3%	46.7%	40.0%	33.3%	26.7%	20.0%	6.7%
支援対象者	5	-	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
支援が必要な状態(支援希望なし)	31	32.3%	22.6%	48.4%	61.3%	32.3%	16.1%	9.7%	32.3%
その他	945	35.4%	24.1%	41.0%	51.1%	38.4%	19.9%	8.5%	26.2%

	回答数	支援者への研修	無回答
ひきこもり	15	-	6.7%
支援対象者	5	-	40.0%
支援が必要な状態(支援希望なし)	31	6.5%	12.9%
その他	945	6.8%	15.1%

- ・ ひきこもりに該当する人の同居者では、「本人への直接的な支援」、「本人が参加できる居場所等をつくる」がともに53.3%と最も高く、「相談窓口の充実」(46.7%)、「相談窓口の周知」(40.0%)が続いている。
- ・ 支援対象者に該当する人の同居者では、「相談窓口の周知」、「職場体験(就労体験)ができる仕組みづくり」がともに40.0%と最も高くなっている。

## 【調査から見てきたこと】

- ひきこもりに該当する人、支援対象者に該当する人ともに「相談窓口の周知」等や「本人への支援」が上位となっており、その傾向に大きな違いは見られなかった。
- ひきこもりに該当する人の同居者では、「本人への直接的な支援」が最も高い割合だったのに対し、支援対象者に該当する人の同居者では、「相談窓口の周知」、「職場体験ができる仕組みづくり」が高い割合となった。
- ひきこもりに該当する人や支援対象者に該当する人、さらにそれぞれの同居者において、「正しい知識の普及」を求める割合が高くなっている。

## 今後の予定

本調査により得られた結果を、各区の保健センターやひきこもり相談支援センター等と情報共有し、窓口での相談支援に役立てるとともに、学識経験者等からなる審議会などでの今後の議論を通して、ひきこもり状態にある人やひきこもりになる可能性のある人の属性や個別の事情に配慮した支援の在り方、支援機関の広報活動、アウトリーチの仕組みづくり等の施策の検討に役立てる。

また、本調査は本人だけでなく、本人の同居者（家族等）に対しても実施しており、本調査により得られた結果を参考としながら、家族に対して寄り添うことができる支援の在り方についても検討を進める。